

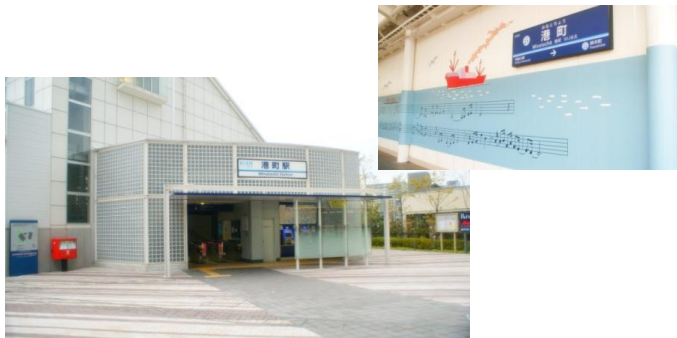
かわさき区の宝物シート

宝物No.	けいきゅうだいしせんみなとちようえき 京急大師線 港町駅
5-4	

エリア	中央地区	シーズン	通年
	旭港	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input checked="" type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



写真提供：京浜急行電鉄株式会社

所在地	川崎区港町1-1
問い合わせ	京急ご案内センター
TEL	03-5789-8686または045-441-0999
FAX	
E-mail	
URL	http://www.keikyu.co.jp/information/magazine/index.html (京急電鉄HP/京急沿線マガジン)
交通	京急大師線川崎駅より1駅目



※川崎市の承認を得て同市発行の都市計画基本図を複製したものです。
承認番号（川崎市指令ま計第159号）

基礎情報

■かつての京急大師線港町駅は、現在の場所から300mほど北西側の六郷川河畔に設置されていた大師電気鉄道「発電所前駅」がその始まりとされており、その後の鉄道経路の変更に伴った駅の移設や幾度かの名前の変更を経て、現在に至っている。

由来・エピソード

- 明治32年(1899)の大師電気鉄道が開通した際に、六郷橋付近に設置された駅は、六郷川河畔に電力供給のために建設した久根崎火力発電所があったことから、「発電所前駅」と名付けられた。発電所では発電事業のほか、余剰電力の供給事業も行っており、そこに鉄道駅が設置されたことから、六郷川沿川周辺には次第に工場が進出してくるようになり、京浜工業地帯の基礎が形づくられていった。
- 駅舎はその後「久根崎駅」と改称されたのち、昭和3年(1928)の六郷橋～川崎大師駅の経路変更の際に廃止された。その後、昭和4年(1929)から2年間限定の臨時停留場として「河川事務所前停留場」が開設された。昭和7年(1932)の「コロムビア前駅」としての正式開業後、昭和18年(1943)に一旦営業は休止されたが、翌年に「港町駅」と改称して再開された。戦後は長らく無人駅であったが、昭和31年(1956)10月、現在地に移設され、駅務員配置駅となった。移設された港町駅の周辺は江戸中期まで多摩川の河岸から果物等を出荷する「津出し」の小港として栄えた土地である。
- 昭和52年(1977)4月、大師線の大型化を図るために、ホームの延伸と人道跨線橋の新設工事が完成したことにより、構内踏切道は廃止された。
- なお、昭和32年(1957)に発売された美空ひばりの『港町十三番地』（日本コロムビア）は、具体的な地名は歌詞に出てこないが、今の港町5丁目付近を歌った曲といわれている。当時の日本コロムビアの所在地は「九番地」だったが、ゴロが良いことから「十三番地」にしたとの説も残る。
- 平成25(2013)年には、京急電鉄が港町駅に『港町十三番地』の歌碑を建立し、ひばりの等身大の姿や実寸の手形とサイン、発売当時のレコードジャケットも描かれ、ボタンを押すと本楽曲を歌唱しているひばりの歌声が流れるようになっている。

補足・その他



関連シート

- (1-2)六郷橋駅跡
- (5-5)川崎河港水門
- (5-9)京浜急行大師線 鈴木町駅
- (10-1)京急発祥の地碑(川崎大師駅)
- (31-1)コロムビア・ネオン塔
- (30-1)ニッポノホン